

*** 発見されたフランス製プラン子午儀をプレミュージアムに搬入**

2008年10月20日、大発見としてアーカイブ室新聞76号で報じたフランス製のプラン子午儀をプレミュージアムに搬入した。重いものなので野球の仲間の助力で作業を行った。助力してくれたメンバーは木挽、今西、中島、和泉、大須賀、松井の6人であった。このプラン子午儀のあった場所は基線尺倉庫で電気も入っていない篠竹の竹やぶの中に立っている古い倉庫で、皆、蚊に食われ、懐中電灯で照らしながら作業してくれた。手伝ってくれた面々の多くは初めて足を踏み入れるような場所であったらしい。

作業は困難を極めたが、さすがに若者の人数に任せた作業でどうにか PMC の望遠鏡フロアに搬入することができた。写真1が PMC に搬入され復元されたプラン子午儀である。なかなか神々しい姿である。



写真1 天文台プレミュージアムに搬入されたプラン子午儀

このプラン子午儀は大正 14 年に水沢と東京に輸入されたものの一つである。アーカイブ室新聞 76 号に書いた記事で既に東京のプラン子午儀の鏡筒部は発見されていたと書いた。プレミアムに搬入して、このプラン子午儀を復元し、名盤を見たところ、水沢の名盤と同様の名盤（刻印の配置は違う）が刻印されていた。写真 2 が水沢のプラン子午儀の刻印、写真 3 が今回発見されたプラン子午儀の刻印である。



写真 2 水沢にあったプラン子午儀の刻印



写真 3 今回発見されたプラン子午儀の刻印

これを見るとどちらもゴーチェ子午環を製作したゴーチェの事業を引き継いだ会社であることがわかる。水沢のプラン子午儀の刻印を見て驚きの声を上げたのは、天文学史に詳しい佐藤利男氏であった。先に三鷹で見つかったプランの子午儀の鏡筒のセンターセクションの刻印（写真 4）はこれとはずいぶん違っていた。写真 4 の刻印には既にゴーチェの文字がなくなっている。ということは、鏡筒の一部が見つかったプラン子午儀の制作年代はこれらより新しいと思われる。



写真 4 以前発見されたプラン子午儀の望遠鏡部の一部だけの刻印

このプラン子午儀はほぼ原型をとどめており、往時の創意工夫がよく見て取れる。それらについての詳細な考察は別の機会に譲るとして、駆動部（写真5）、接眼部（写真6）など完全な機構が見える。対物レンズも無事である。



写真5 ギアで駆動できるようになっている

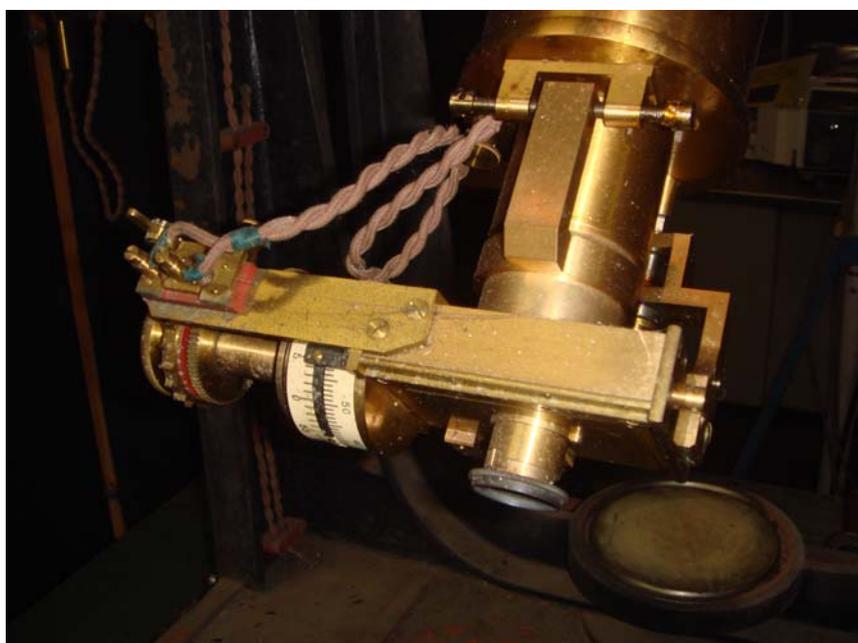


写真6 プラン子午儀の接眼部

今回の記事は、プラン子午儀発見、プレミュージアム搬入、復元の速報としてアーカイブ室新聞 80 号を発行しました。